



### 洛南・右京エリアTOPICS 【洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」】

#### ◇年度末お楽しみ会

3月に「年度末お楽しみ会」を開催しました。お菓子と飲み物を用意し、飲食を楽しみながらあすなろの一年間の活動をスライドショーで振り返る行事です。

スライドショーは、音楽と共に4月のお花見散歩の写真から始まりました。半日外出レクリエーションでのドライブや工場見学、カフェで食べた美味しそうなケーキや飲み物が映され、楽しかった時間が思い出されます。ハロウィンやクリスマス会、初詣等、季節の行事での様子、茶話会の写真では大きなケーキやプリンを皆さん満面の笑みで口にされていました。自分の写真が映ると「キャー」「お～」などと声を出して喜ぶ方や少しテンションが上がる方もおられました。



後半は、お菓子と飲み物を楽しんでいただきました。小さなブッセとマドレーヌでと、事前にお聞きしていた希望の飲み物（コーヒー、お茶、サイダー、アップルジュース）と一緒に召し上がっていただきました。甘いお菓子を食べて、皆さんとても嬉しそうな表情をされていました。



スライドショーはお菓子を食べている間もリピートされ、楽しい音楽が流れゆったりとした時間を過ごしながら、あっという間だったあすなろでの一年を皆で振り返りました。

「またやりたい」という意見が多かったので今年度も開催予定です。



(洛南障害者デイサービスセンター「あすなろ」：竹井 博行)

# 伏見エリアTOPICS 【伏見障害者デイサービスセンター】

## ◇みんなで楽しい食事会！

2月から3月にかけて、「ホテルランチ」か「デイサービスでの茶話会」を利用者の皆さんに選択してもらい食事会を開催しました。

ホテルランチでは、彩り豊かな料理が運ばれ、その中でもエビの旨味がたっぷり詰まった高級感のあるコロケは参加された方々から非常に「おいしい」と好評でした。



みんなで記念撮影



ホテルランチのお食事

いつもと違った雰囲気の中で昼食を楽しまれ、笑顔が多く見られました。

ゆったりとした時間の中で交流も深まり、思い出に残る1日となりました。

またデイサービスで開催した茶話会では、ケーキと職員が淹れたロイヤルミルクティーで楽しいひと時を過ごしました。

その中で2025年度の活動を振り返るスライドを大画面で見ながら思い出話に花を咲かせておられました。



ミルクティ煮込み中！

今年度も、皆さんが笑顔で過ごしていただけるような活動を企画して参ります。



おいしいケーキ！

(伏見障害者デイサービスセンター：小堀 達也)

# 山科エリアTOPICS 【『ほっと』・『あんど』】

## ◇ 『ほっと』・『あんど』の活動について

生活サポートセンター『ほっと』（以下『ほっと』）は居宅での介護や、外出の支援を行っています。外出については季節のお出かけをご希望される方も多く、春先では「花見に行きたい」とのご希望で、山科を少し離れて桜を見に行くこともあります。



比叡山坂本  
吉田神社への参道



比叡山坂本  
吉田神社方面から琵琶湖を望む

利用者の皆さんは、ヘルパーが来るのを楽しみにして待っておられるので、少しでも目新しいものを感じていただこうと、一つの例として、太秦の映画村を訪ねる等、普段の生活ではなかなか感じることでできない、外出の特別感・非日常感、「ちょっとしたいつもとは違う楽しみ」を感じていただけるよう心掛けています。



東映太秦映画村  
正面道路より入場ゲート

共同ホームあんども、回数は多く開催できませんが、普段とは違う日常が感じられるようイベントを企画・実行しております。



あんどイベント  
クリスマスパーティ



あんどイベント  
暑気払いの焼肉会

これからも利用者さんたちが充実した時間を共に過ごせるよう、より一層努力していこう、と思う次第です。

（生活サポートセンター「ほっと」：加藤 武生）

## どういふ価値観で私たちは生きるのか～実習生の受け入れを通じて～

2026年2月号に「実習の受け入れについて（洛南障害者授産所：海東さん）」の記事がありましたが、支援センター「らくなん」でも今回2回目！となる実習の受け入れを2月末に行いましたので、そこで感じたことや考えに至ったことを実習生の言葉も借りながらお伝えしたいと思います。

今回の実習生は1回生で、障害のある方とは関わったことがほとんどないという状況でした。何を伝えたいのかな…と私達職員も迷いながらの受け入れでしたが、エリアの各事業所、他法人の事業所さんにも協力いただき、共に沢山の気づきがあった実習になったのではないかと感じています。

まず、実習生さんのある日の記録の一部を紹介します。

---

帰る前に、ある利用者さんと話をした。その方は約15年前に交通事故に遭い、足が動かなくなって車椅子生活になったそう。障害を負って一人で生活することが難しくなったが、多くの人の支えを受けながら生活していると話してくれた。

「障害者になったことで、こんなにも多くの人と出会えた。赤ちゃんのように、何もかもが初めてのことばかりで楽しい」とも話していた。卓球バレーも、みんなでやると楽しく、今では代表として試合に出るほどで、「生きがいです」と教えてくれた。退院した頃は手を少ししか動かさなかったが、ゴミ箱を作る作業や、卓球バレーを続けるうちに、少しずつ手が動くようになったと嬉しそうに教えていただいた。

また、その利用者さんから、昔はスーパーなどで「少しの間だけだから」と入口付近に自転車を止めていた。だけど、障害者になってそれはとても迷惑に感じるという話を聞いた。誰もが生きやすい社会にするためには、地域で暮らす障害のある人の立場に立ち、こうした小さな配慮を積み重ねていくことが大切だと強く感じた。

私はこれまで、健常者が障害者になることに対して、失礼な考え方であるが、「不幸でかわいそうだ」と思ってしまった。しかし、この方の話を聞き、その考えはなくなった。失望感から前向きに生きられるようになった背景には、この人に関わった福祉に携わる多くの人たちの温かい支えがあったのだと感じた。

---

そもそも1回生で障害福祉については勉強し始めたばかりで、自分の人生の中で障害がある方と接する機会がほとんどなかった中、「失礼な考えであるが、『不幸でかわいそうだ』と思ってしまった」と実習を通じて当事者の話を聞くことや生活の一場面に触れる中で、自身の障害者に対する感想を振り返り率直に述べています。

竹端寛さん著書「福祉は誰のため？」（ちくまプリマー新書502）の中では、「かわいそう」という気持ちが生まれる論点を3つ述べられています。

一つ目は「自分で〇〇出来るのが当たり前」という前提を基準に、それができない「かわいそうなあなた」と、それが出来る「かわいそう、ではないわたし」を分断する評価軸である、ということです。「出来ないより、出来た法が良いでしょう？」と言われたら、確かにその通りかもしれません。でも、だからといって「できるわたし」の方が「できないあなた」より上だとか、能力がある、とかそういう話とは違います。機能としての「出来る・できない」と評価としての「かわいそうかどうか」は分けて考えた方がよいのです。

二つ目は、そもそも「自分で出来るのか当たり前」という前提自体が正当かどうか、という問いです。例えば、鉄道に関しては、以前は「自分一人で乗り降りできるのが当たり前」という前提がありました。だからこそ、駅の階段や段差を一人で登り降りできない人は、鉄道にのれなくても仕方ない、という「常識」や「乗車拒否」が半世紀前まではありました。でも関西の車椅子ユーザー達が「誰でも乗れる地下鉄」を目指した社会運動を始め、そこから地下鉄にエレベーターが設置され、自治体レベルでのバリアフリー条例が生まれ、2000年には交通バリアフリー法が制定されました。今では車椅子ユーザーでも当たり前のよう鉄道移動ができていますが、これは「自分で〇〇できるのが当たり前」という前提自体を問い直す事で、実現できたのです。

三つ目は、「後ろ向き責任」と「前向き責任」のどちらに焦点化するか、という論点です。電車に乗れなくて、かわいそう」というのは、本来なら障害ゆえに乗り降りできないのは本人の過失責任ではないのに問題を自己責任化した「後ろ向き責任」の視点で捉えています。でもそれは「出来ないこと」を個人の悲劇や不

幸と捉え、それを固定化する視点です。他方、「ではどうやったら今後電車に乗れるようになるのか」というのは、現在から未来にかけての「前向き責任」の視点です。これは「できないこと」を個人の悲劇や不幸とは捉えず、どうしたら可能になるのか、という変化の可能性を模索する視点です。そして、「後ろ向き責任」が問題の個人化として捉えられるとしたら、「前向き責任」は問題の社会化でもある、という違いがあります。(72頁・73ページ)

実習生さんが当事者に率直に感じた「不幸でかわいそうだと思ってしまった」ことは、誰にでも生じることなのかもしれません。竹端さんは、標準化や規格されてきた経済的な側面の歴史から、均質性の肯定や差異の否定が社会構造の中に作られてきたこと、このことが同質性の高いコミュニティを生み出し、それが個人に内在化されていると述べられています。その中でどのようにしていったらいいのか。それは「他者の他者性を聴く」。どういうことなのかは、詳しく本書に書かれていますので、是非とも皆さんにお手に取って読んでいただきたいなおもっています。



今回の実習生さんがその利用者さんの「背景」について想像し、考え、そこから思い至ったことが、今後の障害福祉の学びをより深めていくのではないかなと感じています。また今後の学びの中に、どのような価値観があれば、私たちは心地よく、誰もが住みやすい地域づくりができるのか。そのような視点にも繋がっていくのではないかなと期待しています。

最後に、実習生さんから実習終了日にいただいたメールを紹介いたします。

お世話になってます。  
8日間の実習ありがとうございました。

実習に行かないといけないと聞いたときは、正直少し面倒だと感じ、きっと楽しくないだろうし、適当にやり過ごそうと思っていました。

しかし、実際に実習に参加してみると、とても楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

実習全体を振り返ると、障害があっても実は私たちと大きく変わらないのではないかと感じます。実習の最初の方で、大塚さんが「障害って何だろうと思う」とお話しされていたときは、何言ってるんだろうとその言葉の意味をあまり理解できませんでした。しかし、実習を終えて振り返ってみると、本当にその通りだと感じています。障害という壁がありながらも、工夫や努力をしながら自分なりに楽しく前向きに生きている姿、そしてそれを全力で支えている相談員の方をはじめとした多くの福祉関係者の方々の存在あってだと思えます。その様子を実際に見ることができ、とても多くのことを学びました。

(中略)

法人の基本理念である「普通の暮らしができるように」という考え方のように、実習を通して、障害のある方々の壁となっているものを少しでもなくしていけるよう、これから大学で福祉の授業を通してさらに考えを深めていきたいと思っています。

(中部障害者地域生活支援センター「らくなん」：大塚 秀樹)

## ◇今年も佛教大学「学内就職フェア〈障害領域編〉」に参加しました！

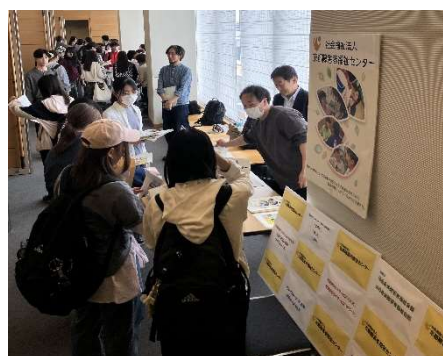


4月21日（火）佛教大学の「学内就職フェア〈障害領域編〉」に参加しました。

この就職フェアは、社会福祉学部の田中智子先生、孔栄鍾先生が「障害福祉の現場と学生をつなぐ機会を設け、先輩のいきいき働く姿を見て、学生が社会福祉専門職として働く後押しをしたい！」との思いで、全学部・全回生を対象に企画され、300名以上の学生が来場されました。佛教大学の実習生を受け入れている法人にお声掛けいただき、当日は当法人を含め京都・滋賀・大阪・和歌山から14法人が参加しました。

卒業生によるシンポジウムでは「障害領域で働くやりがいと魅力」をテーマに、各法人の佛教大学卒業生による公開討論会を開催、当法人からは支援センター「らくなん」大塚秀樹副所長がベテラン代表として登壇しました。

採用2年目からベテランまでの各登壇者からは、“障害者福祉の仕事の魅力”や“後輩へのエール”などについて熱く語られ、多くの学生が熱心に耳を傾けていました。



法人別ブース「なんでも説明会・相談会」には、佛教大学非常勤講師でもある長原一博伏見センター長、大塚副所長、平嶋麻由副主任（うずまさ学園）、佛教大学卒業生の澄川優輝支援員（ふしみ学園）に参加してもらいました。来訪者にはうずまさ学園のクッキーをプレゼントした効果もあったのか、60名以上の学生が当法人ブースを訪れてくれました。

法人の事業内容や福祉の仕事の魅力などをPRし、現場と学生をつなぐよい機会となりました。

近年、介護福祉人材の確保が大きな課題となっています。社会福祉を学ぶ学生でも「障害領域」への進路を選択する方が少なくなっているとのこと。このような状況のなか開催された就職フェアは地元京都の学生に障害福祉を知ってもらう本当にありがたい機会となりました。

当法人では、各大学に実習生受入を積極的にアピールするなど取組を進めています。今後も佛教大学をはじめ各大学とも連携して人材確保の取組の輪を広げ、一緒に働く仲間を増やしていきたいと思えます。

（本部事務局）

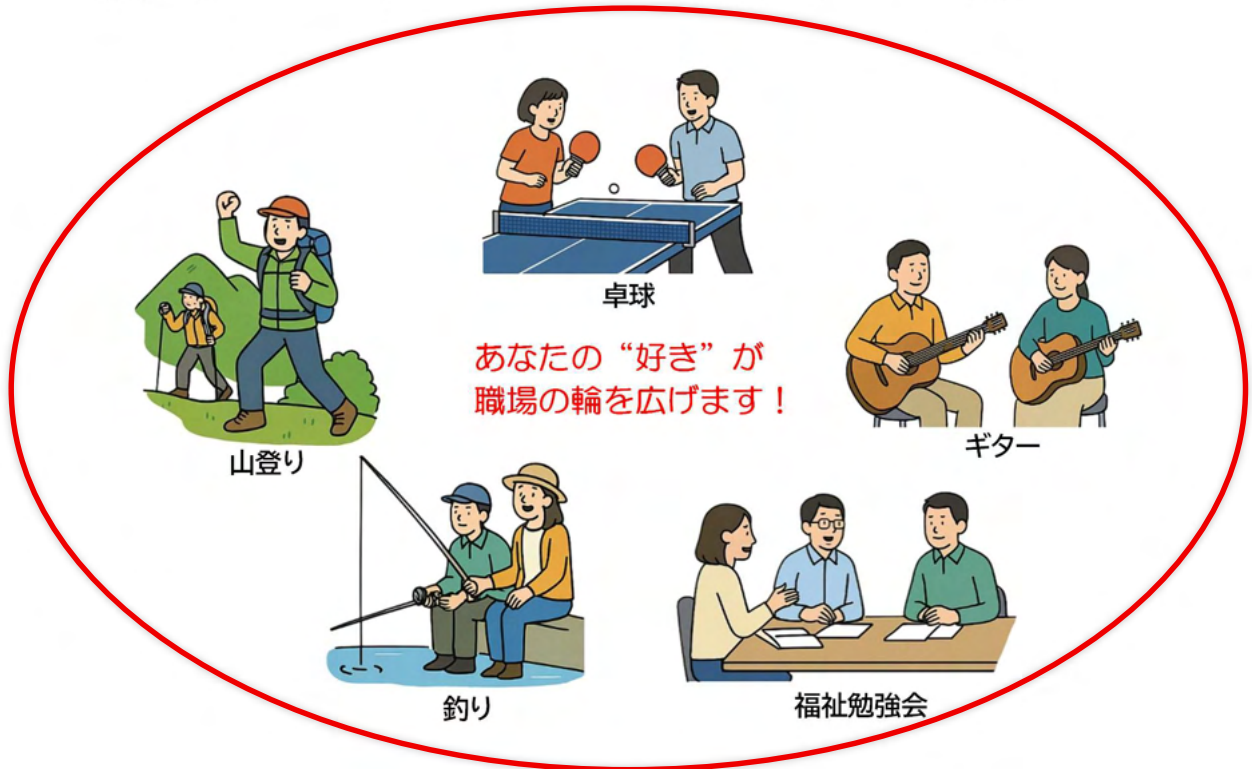
# サークル活動助成金制度 スタート！

～仲間と一緒に楽しく活動しよう！～

職員の心身の健康増進と親睦を目的に、「サークル活動助成金制度」を2026年度（令和8年度）よりスタートします！

「同じ趣味を持つ仲間と集まりたい！」「職場を超えて交流を広げたい！」そんな思いを応援します ✨

仲間と楽しむことで、心のリフレッシュと笑顔を広げましょう！



## 【サークル活動助成金の概要】

募集サークル数	・5サークル程度を予定
助成対象サークルの要件	・正職員1名を含む3名以上の職員（嘱託・パート可）で構成 ・年間2回以上の活動を予定
助成内容	・助成金上限 助成対象経費の1/2以内とし、1サークルにつき年間30,000円 (助成対象経費) ①用具・備品購入費 ②施設使用料・会場借上料 ③大会参加費 ④印刷費・教材費・講師謝金 ⑤団体保険料 ⑥交通費・燃料費・レンタカー代 など ※飲食費や個人用物品は対象外です
スケジュール（予定）	・2026年4月～6月 サークル登録申請受付 (同一内容のサークル申請があった際は、法人本部事務局で調整させていただく場合があります)

問合せ先 法人本部事務局

## ★法人職員 リレー紹介★

このコーナーでは法人の新規採用職員を紹介していきます！！

どのような職員が働いているか皆さんに知っていただけたらと思います(^)/

# NEW STAFF



山科授産所



## 小林さくら さんです

Q.自分を動物に例えると？

A. ナマケモノ

- マイペースな性格で、ゆっくりすることが大好きです。家にいる時、休みの時は、極力動かず、専門学校の時は提出物がギリギリになることが少なくありませんでした…笑

Q.好きなアーティストとかは？

A. コブクロとか宇多田ヒカル

- 小さい時、親が車で流していた曲を、最近聞く機会があり、いいなーと思い、あらためて聞いています♪

Q.好きな食べ物は？

A. 牛乳かんとん&プリン

- 牛乳かんとんは中学1年生の時に大ブームが来て、1週間に1度は食べていました。今もブームが来ています！
- プリンのおすすめは、ジャージー牛乳プリン、ですが、3個とか4個パックの安っすいプリンが最高です！

Q.好きなことは？

A. 編み物、食べること、たくさん寝ること

- 編み物は、ひいおばあちゃんの影響です。ブームもあり、かぎ針縫いで「どうぶつの森」のベル袋や肩掛けのナップサックをつくっています。
- 休みの日は、たくさん食べて、たくさん寝て、リフレッシュしています。

Q.働く中で感じていることは？

A. 利用者さんとの関わり！

- 自分の中で利用者さんとうまくコミュニケーションがとれてないと感じていて、悔しい…という気持ちがあります。負けず嫌いです。小中高とバレー部でした。ちなみに、高校の時はキャプテンでした！

★上司から聞いた溝内さんの印象

- 新潟県出身の20歳！めっちゃいい！
- 落ち着いていて、かつ、しっかりしている！なんでも1回で覚える！
- 返事がめちゃくちゃいい！素敵！

これからの活躍に、ご期待ください！（取材 支援センター「らくなん」：大塚）